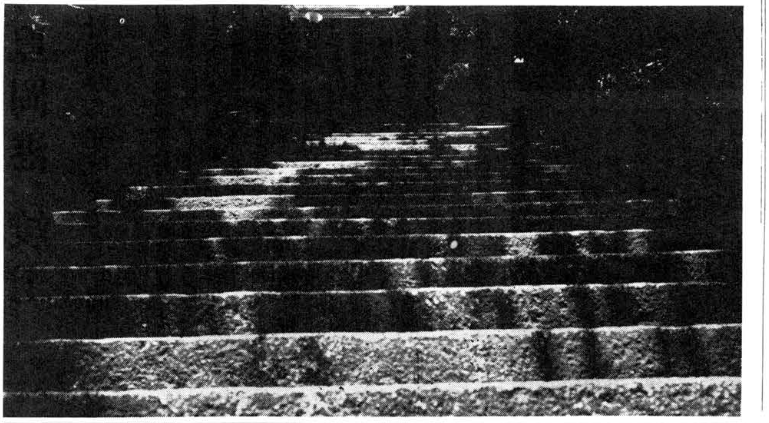
宗像

毎月一日発行
発行所
宗像大社
宗像会
福岡県宗像郡玄海町
電話神湊133番
定価一年送料共　500円

参道

大海原を見おろすところ
　白い石段が続く
喜びにつれ
　悲しみにつれ
人々はこの石段を
　踏みしめる
参道は求道の階
祈りはここから
　はじまる

（大島中津宮）



沖ノ島

現地大祭斎行さる

日本海々戦記念日に当る去る五月二十七日、恒例の沖津宮現地大祭は諸般の事情で、午前十時より中津宮御社殿において久保宮司以下神職奉仕により、一般参拝団、海洋奉賛会参列のもとに斎行された。

この祭典に関しては約一月前に全国各地の崇敬者の方々へ参拝案内状が発送され、先着順に受付けられていた。諸事万端整い、二十六日午後六時、中津宮に於いて参拝者参列のもとに前夜祭が執り行われた。

翌二十七日は夜来よりの雨も小降りとなり、海上も比較的穏やかであった。定刻通り午前五時、大島から、海上保安庁の便宜により便船に乗り移り一路沖ノ島へ向ったのであるが、途中外部で突発事故が生じやむなく中止となった。遠路この祭典に参列するため来られた参拝者の方々が、今年も御神島に行けなかったことは残念であった。

神島、沖ノ島に関しては先年、東京、京都に於いて国宝展が開催され、又本年は発掘調査も行われることになり、人々の認識も深まったせいもあってか、例年になく参拝申込が多かった。地域的には東北、関東、関西方面にまで及び、年令的には二十、三十代の層が多くなった。年々盛大な祭典行事となっていくが、今年のように天候事情や、突発事故等により、渡島できないことが有る。「一年行かずば三年行けず」のジンクスがあるが、来年こそは、めったに行けない御神島で敬虔な祈りを捧げたいものである。

神具、装束
結婚式場用品
株式会社　井筒
福岡支社　福岡市吉塚西林寺町　西林寺内
電話⑥⑤九四五六
本社　京都市下京区油小路通六条北入
電話　京都㉟　六〇六六・一三二四番
七三三七・九七八九番

昭和四十三年度

責任役員会及び監査会開かれる

六月十七日午前十時より大社役員会が、当社斎館に於いて行われた。昭和四十三年度の決算報告、並びに復興計画についての経過報告、社務一般の諸報告に基いて種々審議がなされた。

これに先だち仝月十三日、前記年度の監査が行われ大社費と、氏子会費とが別室でそれぞれ厳正に行われた。大社費は社務本局、海洋分局及び、文化財管理事務局等数千枚に及ぶ証憑があり、六名の監査員は終日多忙をきわめた。この監査会の結果が前述の役員会に於いて報告されたのである。

先づ歳入の面では、その大半を占める大社の社頭収入は年々増大の一途を辿っているが、近年は祭日の別なく平日、特に土、日曜日の参拝者が非常に増し、心強い状態である。又、歳出の面は諸物価の上昇に伴い、経費も多額の出費を余儀なくされているが、出来る限りの冗費の節約につとめ大復興計画の準備費に事業費の大部を充当している。

昭和四十三年度の予算は、例年に比し多額の予算案を組んだのであるが、予算額に対し決算額は約壱千参百万円の歳入増で、大復興準備費に投入出来、復興の浄財と合せ着々と進捗しつつある等、全役員に非常に喜ばれた。以上決算に続き諸報告も役員全員の承認を得て、役員会の議事を終了した。

夏越祭の御案内

来る七月三十一日は、恒例の夏越の祭りが斎行されます。

この祭りは、大祓いとも云われ、年二回、夏と冬にとり行われ、一年の半期に、過ぎし日を振り返り、自己が意識する、しないを問わず、今まで犯して来た心身の罪、けがれを人形に托して祓い除け、清々しい気持をもって、明日の生活を安らかに、豊かにする為の祈りをこめた祭りであります。

当社では、全国の特別崇敬者五萬名の方々に、赤白の紙製人形を郵送し、この人形に男の方は白、女の方は赤に、氏名、年令を記入して息を吹きかけ、枕の下に敷いて一夜を過した後、七月三十日迄に御返送下さるよう御案内申し上げております。

大祓いの神事は私達の祖先から伝えられた大切な生活の智恵であります。

季節の折り目折り目に、心身を一新して更に前進しようとする心構えは、日本人の心に脈々と生きつづけた精神支柱であり、祖先から伝えられた生活への灯であるといえましょう。

祭典は七月三十一日、午後五時夕陽が西の空に傾く頃、神門前に神職が列立して、大祓いの詞が朗々と奏上され、祓いの儀が行われます。この後人形は玄海の大海原に流されます。

万障御繰合せの上御参列下さいますよう重ねて御案内申上げます。

論説

蘭の言葉

ある哲学者の未亡人が、孤独の生活の中に、愛好する蘭とともに生きる手記を書いている。

「私の夫は哲学者でした。三十何年前に結婚しました当時、世馴れず、田舎育ちの私は、むずかしい顔をしたむっつりやの主人にどんな話題をもちかけていったらいいのかと、いろいろ心をくだいたものでした。そのような折、縁側の日当りのよい所においてました東洋蘭の幾鉢、掃除の時は一寸邪魔のようにも思われましたが、その蘭はよい話題の種になってくれました。園芸について何も知識のない私でしたが、何ともいえない風雅な葉の姿、楚々として、香りの高いその花に次第に興味が出てまいりました」

学問の話を、専攻の哲学を、興味のない妻に語っても無駄だろう。時には仕事の多弁な披露が、却って家庭の調和を害することさえある。蘭を愛する心、美しい花を咲かせる愛情、それが無言の優雅な微笑でもあり、真情こもるささやきでもあった。

戦争中は蘭を車に積んで、疎開先に運んでゆき、子供を空襲から守る防空壕に、蘭もまた難を避けて育てられた。その家庭には、無口な夫の哲学が生きており、妻に喜びを与え、子供にゆたかな心を教えていた。

今日、その未亡人は、何よりもよい遺産を与えてくれましたと、蘭とともに生きる生活に感謝している。蘭は愛の哲学を語っている。

「現代の平均的家庭では、親と子の話合いの場がなく、父は孤独、母は戸惑っている」と、全国教育研究所連盟がこの頃まとめた実態調査を挙げている。連盟関係の教育研究家は、次のように説く。

「学園紛争ではないが、家庭経営に子供を参加させてみたらどうでしょう。父は職場の話を通じて社会的な広がりを、母は家事労働を通じて家庭の大切なことを、それぞれ子供達と共有の話題にする。金の出し入れも、子供に隠す必要はない。そんな日常的な事がらをみんなで話題にしながら、父は自信を持って自分の哲学を浸透させる」と。

いま流行のアンケートを掲げて、現在の家庭生活に於ける父の役割に警鐘を鳴らしているが、どう改めたら救われるかの説には賛成しがたい。職場の雑事や、家計の実態をこまごまと子供に話して、家庭に個性が育成され、父の哲学が浸透するなどと考えては、教育研究の成果はあがるまい。大切なものを落としている。

職場を語る父と言えば、少々古い話だが、旧藩時代の毛利藩に受け継がれた松の挨拶を連想する。関ケ原の一戦に破れた石田方の毛利藩は、中国の広大な領地を削られ、周防長門の二州に押さえられた。この時から打倒徳川の強烈な復仇心が、ウツボツとして一藩重役の信念にまで高揚され、父子相伝えて子々孫々に植えつけられたのである。

「幕府をお討ちになるのは、いつでございますか」と。これが家老の年賀の挨拶。他の口上は一切ない。藩主の返事は、まだ早いと毎年繰りかえされる。

めでたい松の内に、極秘の伝承が行われていた事は、幕府の密偵も知る術なく三百年。遂にこの信条は弱体化した江戸の権威に抗するに至って、長州征伐となり、維新回天の指導勢力となった。隠忍自重、節倹尚武の士風は、家老の家に伝わる松の挨拶にその源泉があった。それは多くの弁論を必要としない簡潔真剣な父の哲学であったのである。ゆるみなき心情が無言の中に養われ、たくわえられたその力が、いざ鎌倉の本番に役立ったのである。

功利的現実的な世相を反映するかの如く、教育ママ、教育ワイフの流行語がある。多分に好ましくない母や妻を皮肉っている。世間に対する見栄から、子供に対する行き過ぎ教育、夫の出世をあせる強制勉強、ともに会話のない家庭を批判するご都合評論と反対に、絶えず心のゆとりもゆたかな情操も許さない現代のいやな傾向の一つであろう。

天の配剤に私心は見られない。時期と素質に応じて、花も開き実も結ぶ。無言の蘭の言葉に深い愛情が感じられ、妻を幸福にし子供を順調に成長させる。年頭一語の松の挨拶に、有為転変に屈しない信条が養われ、多数の協力が結ばれる。理想的家庭は家族の勝手な放言では作れないし、文化的国家も便乗評論によっては啓発されないのである。

×　×

阿蒙少言

観光客として日本を訪れる外人もふえ、留学商用等の長期滞在者も多くなって、歌舞伎座で寿司を食べて義経千本桜を観賞する姿もある。日本の現状を見てもらい、古典的芸能を通じて民族性を理解してくれるのもよい。この頃の学園騒動はわかっても、軍歌のレコードがよく売れだした理由は知るまい○新興宗教を視察する独人記者に、病気をなおしたい人が誘われ、金の欲しい人が集るのが、その膨張の理由だと説明したら「議員になりたい者も入り込むから」と自らつけくわえた○鰻の蒲焼白魚のおどりぐいを好む外人は相当の日本通であろうが僧侶を招いての魚供養は、飲み込みが困難だろう。佐倉宗五郎に扮する俳優が、開幕に先だって懇ろな供養を行うなど外国の芝居にはなかろう。日本の心の翻訳は至難でタイプには打てない○「わが国は草も桜を咲きにけり」の風情は、名所旧跡を訪う外人の興味を呼ぶ。そこに苔むした義人の塚、立ちのぼる香煙、その遺芳は知る由もない。然し、国土の持つ四季が日本の心を養うのだと話せば「傑出の人材は温室には育たない」と返した。ある富豪が子弟を二等車で旅をさせ、ある素封家が愛嬢に便所を掃かせる。この修練は欧米の家庭教育にもあると聞く○日本の自然が持つ美を、外人に楽しく紹介したいもの。同時に民族性の本質を伝える貴重な文化財も理解させたいもの。彼等との接触が多くなるにつれて、言葉や文字も外語が多く使われるのはやむを得ないが、言語文字とともに民族の貴重な宝物である○大切な無形文化財の言語文字が、やたらに略され変えられては、合理主義が遺跡の無謀な破壊に暴走するのと同じ。不合理修正の名文句に、不合理のある場合少くない。（白雲）

暑中御見舞申上げます

APOLLO
出光

福岡市大名2丁目8番26号
出光興産株式会社福岡支店
取締役支店長　中野太平

北九州市門司区錦町3番7号
出光興産株式会社門司支店
支店長　弘永隆

宗像大社史話　社史の中の宗像郡民　(七)

奈良平安期の情勢

現代の国史学が、奈良朝と平安朝の両時代を、年表区分の上で古代と名づけているので、ここでもそれに従って、古代に於ける宗像の一般情勢について、その概要を述べる。

先づ古代思想に重大な影響を与えた外来文化の浸透に就いて、考えねばなるまい。応神天皇の朝に、儒教が伝来し、その後かなりの年光を経て欽明天皇十三年に、仏教の公伝を見たのであるが、それはいづれも直ちに宗像地方に影響をもたらしてはいない。二教の異色の外来思想は、固有の民族思想に少からぬ変革を与えるに至ったことは当然の結果ではあるが、当初は政治権力に関係ある中央の貴族の間に止り、地方に浸透するまでには相当の時代的経過があったのである。

宗像氏族の有力な一部が、早くから朝廷にも深い関係を持ち、中央政庁の周辺にも移動進出していたので、この点からも直接海外文化の影響以外の中央文化の受入を見たのは事実であろう。学問・芸術・宗教の展開は、他地方より早かったにちがいない。

わが国上代の政治の体制は、神祇政治と称せられるように、単純な政治性格を以って推移したのであるが、外来文化の影響をうけて次第に複雑化し、奈良朝から平安朝にかけて屡々改革が行われたのである。特に平安奠都の後、前代の弊風を刷新する機運が強くなり、延暦年間には宗像に於ても行政を司どる大領、即ち司政官は、神主との兼帯が太政官符を以って停止された。ここにはじめて祭政が分離されたことは、劃期的の大変革と言えよう。

平安朝の中期以後、中央政情の弛緩が見えはじめ、地方に於ても国司の権威が次第に没落して、同時に各地の実力者が領地を私有化する現象に変貌するに至ったのである。この荘園化の傾向は当然宗像にも波及し、宗像氏族は神領を皇室直轄領に入ることを請願して、実力者の触手を避けた時期もあった。天慶四年に勃発した藤原純友の乱は、中央と地方との政治的紐帯の弱体化を物語るもので、これには宗像氏族も討伐軍に加わり、相当の活動を認められている。

この外には、特にこの地方の変革として挙げるべき事件は少い。大社では醍醐天皇の皇弟たる清氏親王が、勅命を奉じて宗像に下向され、大宮司家を創立されたと、社家の記録が伝えているが、専門学者の間には異論もあって明確な断定は難しい。これもまた宗像氏族の内情に、どんな変化を持ったかは資料がない。

宗教の方面を考察してみる。中央とのつながりの強い宗像に、文化的影響の大きかった中で、神郡に個人救済の仏教が伝播したのも自然の勢である。顕著な寺院創立は、弘法大師が唐から帰国して、先づ開いた鎮国寺である。後世長く大社の神宮寺として、大社の歴史とも重要な関係を持ったのである。その他も郡内各地に寺院が建立されたのであるが、思想的には神仏習合の伝承によるところ、神郡といえども一般世情の例には洩れなかった。

学問芸術の方面は、大社や、有力寺院の関係者に相力の人物も、その労作成果もあったであろうが、今日特筆に値する文献や遺品が現われていない。従って文学史の上でも見るべきものは遺されていない。

万葉集はじめ、平安朝の歌集にも、宗像関係の作品は稀で、物語や随筆の類の内容にも、資料は乏しい。先年大社の境内に万葉歌碑が建てられたが、宗像関係といっても地名が詠まれているだけで、二首ともに地元の文学ではない。大宰府往来の文人学者も、この地方は素通りしたのであろうか。

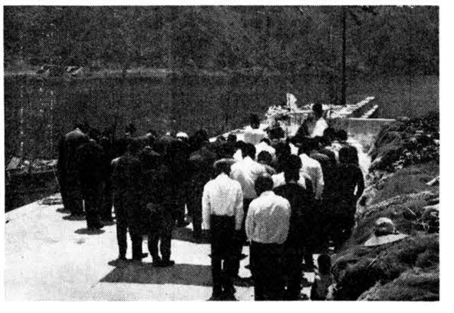
地ノ島〝豊岡港〟竣工

—計画から完成まで七年間—

去る六月九日、宗像郡玄海町地ノ島豊岡港に於て新防波堤竣工式が行われた。当日は晴れ渡った穏やかな天候に恵まれ、海上も凪いで絶好の日和であった。午前十時三十分、玄海町鐘崎から臨時便の渡海船で祭典参列者多数が渡島、十一時半に新波止場に於て、宗像大社司祭のもとに竣工祭が斎行され、玄海町長、工事関係者の玉串が捧げられた。この後感謝状の増呈、工事経過報告があって祭典を終了した。午後からは公民館に於て祝宴が開かれた。

新築の防波堤は、巾五米、長さ五十五米の小さいものであるが、地ノ島豊岡港にとっては、今迄の不自由を一挙に解消したものとして地元の喜びは大きい。この防波堤は、昭和三十七年に計画されてから七年の歳月を費やし離島振興法等の適用によって完成したのである。総工費一千四百万円のこの工事は、町及び地元の熱望と関係者の努力が実を結んだものと言える。この波止の完成によって、渡海船の着港が容易となり、地元漁船の係留も容易となる。太公望達のアナ場であった地ノ島もこの波止の完成によって一段と賑いを増すものと予想される。

地元の人々は「この港は岩礁が多く、満潮の時は岩がかくれ、船を繋いでおくと干潮には岩間に船がはさまれ、船を出すにも着けるにも不便なものでした。このような波止場ができてとても便利になります」と喜びを語っていた。



（写真上　新波止場での祭典と参列の人々）

西鉄無事故祈願祭

去る六月一日午前十一時、西日本鉄道（株）自動車局の無事故祈願祭が斎行された。

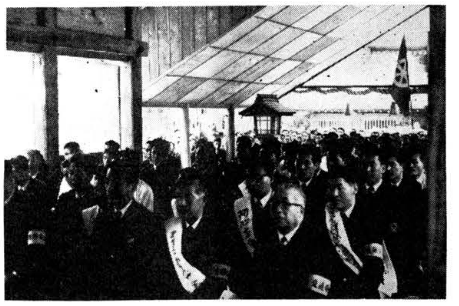
定刻傘下の各営業所からバスに乗り参集した人々は約四〇〇名、めいめい「安全運転」のたすきをかけ「祈無事故」と大書した幟を手にして拝殿前に集合した。

「この人々の操る車に禍事あらむをば神祓に祓い、神清めに清め給いて諸々の機械の障り害ふ事あらしめず、百の通路穏に平けく安けく行き通はしめ給い…」祝詞が完り自動車局長、各営業所長が玉串を奉奠し敬虔な祈りを捧げた。

この祈願祭は、夏季にそなえての事故防止運動に当って先ず道主貴の大前に加護を祈る祭りである。

因に西鉄はバス保有台数三〇〇〇台、その年間利用者は一千七百八十八万八千五百人（昭和四十三年度）で自動車部門の従業員は一万七〇〇名を擁し、バス会社としては世界一といわれている。

また、運行車輌あたりの事故率は全国のバス会社中一番低い由である。この低率を支えるものは何か、ただ従業員一人一人が神前で祈ったその心で運転をし、祈ったその手でハンドルをとる故であろう。



（写真下　敬虔な祈りを捧げる西鉄社員各代表）

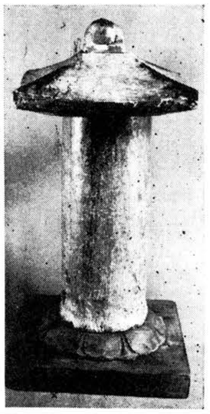
滑石製経筒収納さる

—八百余年昔のもの—

去る六月十六日、福岡県文化会館で開催の、仏教美術展が終了した折、当社より出陳の宝物と共に、稲元地区所有の石製宝塔形経筒一口が京都国立博物館より返却され、当社宝物館に収納された。

この経筒は、明治三十五年十月宗像町河東字稲元部落の中谷組合連中が、八幡宮裏の耕作通りが不便な為、協議の結果改修することとなり、滝口恵吉氏外数名によって堀下げていた折に出土したものである。

経筒は身、蓋、宝珠の三部の組合せから成りたっており、総高四十四センチ、身の中は径十一、四センチの空洞となり更にその上に宝形造の屋蓋状の蓋を載せ、内に経巻を納めるようになっている。筒身の外側には、「白衣弟子綾清宗井氏敬白・奉如法書写妙蓮一部八巻・右善根意趣者・鎮西筑前之国・宗像宮内稲本村居住綾清宗・井氏、現世安穏、後世菩提、供養如右仁平四年（一一五四）九月二十三日」と毛彫されている。これまで経筒は、保管庫等も無い為、調査、研究を兼ねて京博に保管依頼されていたが、昭和三十三年当社宝物館の建立計画と同時に管理団体に指定され、興聖寺所有の一切経と共に管理することとなり、この度の収納となった。



祭りまつり

(七)

日本の夏は各地で行われる山開きと共に始る。これと共に夏山を征服しようとする不遇の志をもった若者達が国中を横行しはじめる。もともと我国には、山を征服の対象としてみる思想はなかった。世界いずれの国々でも古代に於ては山は神霊の鎮りますところとして畏敬されていたが、ヨーロッパではキリスト教の伝播に伴って山を住居としていた神々は次第に妖怪などに堕落し、ルネッサンス前までは、山は「悪魔の巣」と怖れられた。ここから近代登山に於て使われる征服思想が生じたのではあるまいか、一方我国では、古くより山は天に近く、神の降臨する神聖な場所と考えられ、登山の原型には、山の精霊を迎え、それと一体化する事によって自分自身を清め、神の意志の伝達者たり得るという信仰があった。これが中古に至っては密教と結び修験道となった。修験道の霊場が山岳にあるのもこの故である。また浄土信仰にしても山の彼方の浄土より弥勒菩薩が来迎するというように山岳信仰に強い影響をうけている。

また日本の山は大きく二つの型に分類される。その一つは神の降臨する山で孤立峯が多く、一つは死霊の籠る山で平坦部の丘陵が多い。

今日行われている山開きはスポーツとしての登山の開始期を意味しているが、その根底には、平日は霊山の登拝を禁じ、夏季一定の間を限って禁を解いていた古来の山開きの行事のあることを見逃してはならない。

このように日本の山々は神聖感あふれる場所であるため、山に登るほどの者は「山がそこにあるから」などとキザなことを言わずに山を囲る祖先の歩みに思いを馳せて山入りをしてはどうだろうか。

第九十七回
宗像大社献詠歌

毎月十五日〆切　詠草到着順

香椎　織田　橡雨
（頽れゆくに道を嘆きて）
ゆきゝする路作るにも仁といふ人の踏む道などをしへざる

田熊　小野角次郎
笹蟹は憎く素早し足早に夜の天井を走り去りたり

田熊　小野かをる
五月風車の窓に薫りゐて山並つゞく肥後路遥けし

名島　吉田　信夫
色の佳き大輪のバラ挿したれば雨にうるほひ三枝つきたり

田熊　鷲頭かつ代
還暦のかの日に吾子よりとどきたる祝電はながく捨てかねて持つ

田久　小方　実
月に挑む夢のやうなる人の知恵明日の世界を楽しみに生く

宮田　片山　朔子
真珠住む海に映りて生ふる萠木鮮さがしむ急々の山

福岡　江崎　琴子
（庭の若竹）
正しくと節を重ねて生ひ立ちし親にならひし愛ぐし若竹

深田　中野　節子
駅長が出札を兼ねし高原の駅のホームへ坂道を下る

大井　吉田　和子
雀網の朝日にきらめき苗代はさみどりたちぬ風はさやけき

村山田　吉田佐市郎
たちおくれ残る一羽の老い雁のいたづきいやす大岩のかげ

福岡　高橋　傘翁
（恩師を詠める）
ミキせんせ九十有五の春にして八十超えし吾等いとしむ

宮田　片山　一
ひこばえの独活の広葉揺るゝ下古井戸の石苔に埋もる

名残　竹原　圓
溜池の水取る話しきまりしか公民館の灯も消えにけり

武丸　原田　リノ
身の締り見下す岩の底深く五箇瀬川の水は真蒼し

戸畑　安川　浄生
積みあげし蛸壷の影長く引く風なぎし午後砂の渚に

宮田　北原　君子
茶の芽延び八十八夜の近き日や茶摘み姿の母を恋ふるも

大井　安部　重郎
移し植えししもつけ草の花の色五月の空に映えて明るし

大井　安部　静子
木洩れ陽をうけて腐葉土籠に採る老ひも楽しや菊作る夢

門司　永島　哲夫
関門の海底トンネルくぐり来て花散るえごに逢ひしよろこび

東郷　藤崎　辰子
霧雨のつゆを並べて牧水の生家の庭にいちはつの咲く

宗像　中村　幸
しづくたるる洞窟の中先人にならひつつ石を重ねて来たり

吉田　占部　由久
竹の子の親より伸びて皮衣脱げば次々枝葉繁りゆく

大井　木原ふさ子
風立てば庭のかたへの百合匂ふ夜すゝぎ終えて竿干す我に

大井　吉田ますみ
磯菜取る人も交へて大潮の海明るしや初夏の海

武丸　立石ろせの
深き瀬は水青くすみ水底を鮎二三匹すばやくよぎる

福間　森　八蔵
御神殿皇孫奉助扁額を拝しまつりて涙こぼるる

徳重　石松やす子
病むと云ふ事のなければ夜を昼に昼を夜につぎて働きしものを

福間　井原　元彦
次の子が出来れば自然大人しくなりゆく孫のいとほしくあり

朝町　井上陽之助
徒草にそなたの空を眺むればかすみをわけてこさめ降りける

久留米　篠田太郎坊
川辺りに彼岸花の咲く見れば故里の墓に参らねばと思う

勝浦　永島　文子
春雨に煙る島々かそかなり磯辺の若葉仄か香にたつ

平井　土性　トヨ
人工衛生も空飛ぶ迄に命ありてなお月世界の着陸を待つ

大井　村山　幸生
（礼状にそえて）
給わりし衣は未だ着されども心はすでに温りつゝ

田島　白雲　山人
手習ひをいとふ気まゝの筆まかせ蟹のよこ這ふ笑ひ草書く

暑中御見舞申し上げます

西日本相互銀行
福間支店
福間支店長　中西隆治
電話　福間(2)1231　1233番

福岡相互銀行
古賀支店
古賀支店長　古賀信任
電話　古賀　3636～38番

福岡銀行
宗像支店
宗像支店長　中村悟
電話　宗像　2017．2214．2721番

維新の志士の

早川勇先生の歌碑

―旧吉武役場前に完成―

宗像郡では昨年早川勇顕彰会を組織、明治百年記念事業として、維新の志士、早川勇先生の伝記を編集発刊、旧吉武村役場跡に記念碑を建立したが、今回更に仝所（県道赤間直方線吉留バス停前）に写真のような地方稀に見る見事な歌碑が完成した。**碑**石は高さ二米、巾三米、重量十余屯の大自然石で、冨士原の出光さんが大分県の深耶馬渓の山奥から搬出された由、歌は先生が維新当時の心情を綴った代表歌で、

国の為ふかき心をつくしかた
身はよせかへる波にまかせて

と刻まれ、雄大な筆蹟は宗像神社の久保宮司の揮毫である。

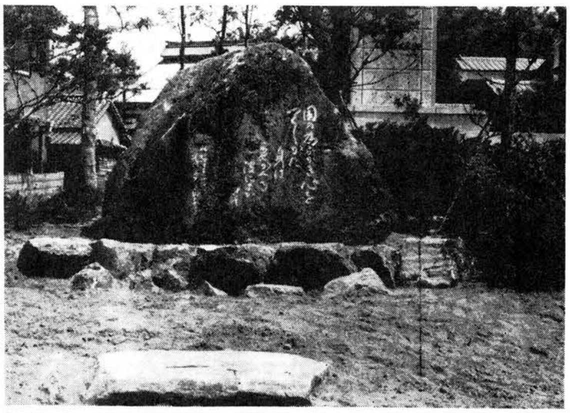
早川勇顕彰会では本年年頭早々委員会を開催、記念事業の決算書を作成したが、其際役員全員の旅費や慰労費を返上して金弐拾余万円を捻出し、更に特志家の寄附を迎いで、懸案の歌碑建設に踏み切ったもの。

早川勇先生は別に春波と号され遺された歌詩は数百首、一部に詩歌稿として纏めてあるものもあるが、各地に散逸のものも相当にあり、其の多くが維新風雲の中、命を的に奔走された気概や覇気が自然に歌詩の中に現れ、又温厚な性質で弱き人々や後進者を援けた情味や、慈味が歌中に溢れて、作品は天下名流の間に互しても決して遜色がなく、其の一部は明治八年、東京小江湖社発行、森春涛著、『東京才人詩歌集』に記載され、又大正年間の中学校の教科書にも記載されていたそうで、後日誰か其方面に詳しい人で、全作品を取り編めて、先生の詩歌集を発刊してはとの説もある。

尚顕彰会では七月上旬仝歌碑の竣工式を挙行の筈。

（同会長高山徳七郎記）

〃維新の志士早川勇伝〃が同顕彰会から昭和四十三年五月二十五日発行された。著者は九大教授桧垣元吉氏で、A５版一一二頁のものである。（非売品）



話題の新車をみる (三十一)

コンソルテベルリーナの巻

企業と云う物、お互いの存在を充分に認め合い、相い和して利益を伸して行く、と云うことは至難の業のようである。自動車産業に於ける各種の提携も、過去生れては消え、当初の目的を完遂し得ない形が多いようである。だがこの中でトヨタ自動車工業、日野自動車、ダイハツ自動車工業の業務提携はその目的を良く活かした例であると云えよう。日野とトヨタの提携はコンテッサ、ブリスカ等に見るような車種の調整となって表われ、ダイハツ自動車工業とトヨタ自動車工業との提携は共同出資からなる販売会社の設立、両社で作製する主力車種に同一のボデー登載等と云う効果を上げ、パブリカをダイハツの工場で製造すると云う案も計画されているようである。

今回はこのダイハツがパブリカと大巾な部品の共通化を計って発売したコンソルテ・ベルリーナについて紹介したい。パブリカとの違いを説明するならば、エンジンとフロントグリルぐらいで、リヤはパックランプの取付場所が違うくらいのものである。室内寸法を大きく、居住性に於いても、リヤサスペンションにロングスパンの半楕円リーフスプリングを採用、フロントサスペンションはバネ下重量の軽いストラットタイプで、乗心地の良さを誇っている。又ストラットタイプのサスペンションはアライメントの調整、給油の必要が無く経済的である。安全対策でも保安基準改正に基く項目外に埋込式ドアハンドル、可動式バックミラー等と行き届いた設計である。

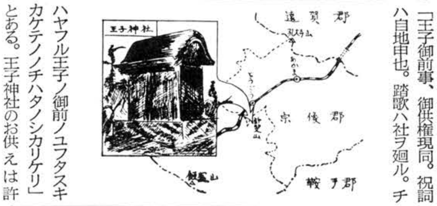
主なる諸元は、全長・全巾・全高、３６４５・１４５０・１３８０㎜、最高速度１４０Km／H、最小回転半径４、４m総排気量９５８cc、最高出力５８ps／５５００rpm、前進４段、後退１段。

神郡宗像

摂末社を訪ねて ㈢

王子神社

宗像郡のほゞ中央に屹立する許斐山（標高二七一米）の山頂に鎮座せられる。この許斐山は本紙に連載されている「許斐の旗風」の舞台になっている山である。山頂よりの展望はすばらしく、南東に英彦山の山なみを望み、西に志賀ノ島から玄海灘の白波を見る。目を脚下におとせば、北九州のベッドタウン、森林都市の住宅街、教育大学、東海大学を中心とする各学校の白い建物が鳥瞰される。又、宗像バイパスが真下を通り北九州より福岡に向う白線が美しい。この山は家族づれや、ハイカーに喜こばれる高さでもあり、四季を通じての眺望の変化に恵まれている。この山頂に鎮ります王子神社は、明治十年、当宗像神社の境外摂社に定められた。これは古来の宗像五社の一つである許斐権現の奥宮であることによる。応安神事次第（一三七五）に正月十七日の許斐踏歌の事が記されている。



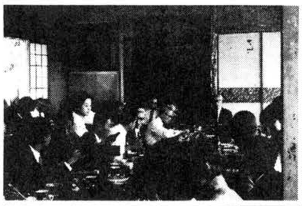
「王子御前事、御供権現同。祝詞ハ自地申也。踏歌ハ社ヲ廻ル。チハヤフル王子ノ御前ノユフタスキカケテノノチハタノシカリケリ」とある。王子神社のお供えは許斐権現と同じで、祝詞は同様に申し上げ、社を廻りながらチハヤフル…云々の歌を唱するというのである。又、筑前国続風土記に「許斐山神社」として、「王丸村の上を許斐山と云、山上に許斐権現の社あり。九月十九日祭日あり。此山上に人の見ざる池あり。大岩有て登る事ならず。山の九分にあり」としてその状況を説明している。宗像年中行事に年中二十四度の神事有よし見えたり。此王子社と本社との間に、数丈の大岩聳立てり。此岩の上に人の見ざる小池有といひ伝ふれども、池といふべき程の所にあらず。岩上に少し凹なる処有て、水溜れるを云。」と記している。明治十八年の宗像神社境外摂社明細書には、祭神はスサノオノ命。本殿は入二尺五寸横三尺、建坪五合六勺三寸、ただし石祠、明治十八年改造とある。この石祠が近年心ない登山者に破壊されたので、昨年立派に復現した。二度と、あのような非常識な行為が行われないよう願っている。郡内の絶景を愛でつつ登山し、山上の小祠に一椀の酒、一握の菓子を供えて神々と共に食事をしたいものである。それが祭りの心なのだから。

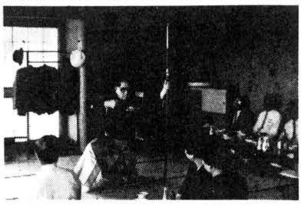
八幡宗像会懇親会

―神湊あけぼの荘で―

去る六月八日、八幡宗像会に於いては、当社に参拝され、敬虔な祈りを捧げた後、神湊あけぼの荘で昼食を兼ねた懇親会が開かれた。

当日は岡崎春雄会長を始め、六十名余の会員が参会され、当社からは久保宮司と随行一名が参列した。会長より「新会員の増加をはかり、当会を一層発展させ、会員相互の親睦を更に深めたい」旨の挨拶があり、当社久保宮司からは挨拶を兼ね、社報の経過、社頭状況、沖の島学術調査準備等の近況と御復興事業の経過報告がなされた。





新会員の紹介等の後、引続き神社より持参の御神酒で一同乾杯し、懇親の宴が催され和やかに談笑が続いた。宴たけなわには会長の雄々しき黒田節の舞が披露され、やんやの喝采を浴び、〃マッテマシタ〃などの掛声がとび出したりして、会場の雰囲気がすっかりやわらぎ、終始和やかで、ユーモラスなムードの盛会であった。一会員の「宗像に来て、宗像神社に参拝するだけで、とても嬉しいんですよ」と云われた言葉が、印象深いものであった。

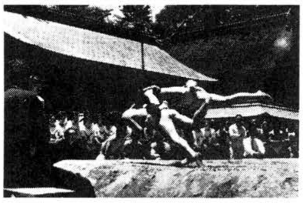
〃玄海中学校にプール〃

この程玄海中学校に水泳プールが出来ることになった。去る六月二十一日、宗像大社司祭によりその起工式が斎行され、高橋玄海町長、黒田町議会議長を始め町議、教育委員、学校関係者、請負業者関係者等多数が参列された。このプールは数年前から計画されていたもので、町政関係者、教育関係者、PTA等の熱意によって、このたび成就したものである。

同校では例年海で水泳教育がなされているが、仲々思うように行かず、泳げないものが多かった。同プールは総面積四〇〇平方米、二五米の七コース、水深一一・三米、循環濾過装置付で総工費八百万円。完成予定は八月頃とのことで、一日千秋の思いで子供等は待っている。

宗像郡中学校相撲大会

去る六月十四日午前十時から、大島の当社中津宮相撲場で第二十二回宗像郡中学校相撲大会（郡中体連主催、西日本新聞社後援）が行われた。お祓いを受けたあと、熱声に支えられ、力闘が続き団体戦十三チーム、個人戦三十六人が健闘した。団体戦では玄海Aチーム、個人戦では一年村田重文（玄海）二年矢野章（玄海）三年蜂須賀英俊（福間）がそれぞれ優勝した。



（写真　団体優勝戦での白熱した戦い）

戸畑宗像会総会

―戸畑豊山閣に於いて―

恒例の戸畑宗像会は、晴天に恵まれた六月一日、豊山閣大広間に於いて開催された。日曜日で晴天のためか、出席者も多数で九十余名と云う盛会を極めた。この会は庶民性を帯びた会と云う事で、女性会員の出席が多く、出席者の半分を占て終始なごやかであった。総会は前田純一副会長の開会のことば、竹内信夫会長の、「創立以来貫いて来た郷土を共にする者の和やかな会合を発展させよう」と云う挨拶と共に、今回の宗像神社の復興事業に対する協力を呼びかけられ、これに対し全会員の拍手がわき起り、熱い感銘を覚えたのであった。

次に安川浄生氏の会計報告。来賓吉田法晴前北九州市長の挨拶等があり、宗像神社久保輝雄宮司の「今回の総会に招待され、誠に喜びに堪えない。今後も会のより一層の発展を望む」旨の祝辞が述べられ、続いて今回宗像神社に戸畑宗像会として榊の大木三本を献納、当日も矍鑠とした元気な姿をお見せになった今年九十三才の南善次翁に会より感謝状、記念品の贈呈が行われた。

（写真左　当日の記念撮影）

暑中御見舞申し上げます

新出光石油株式会社
福岡市上呉服町１番１０号
取締役会長　出光　弘
取締役社長　林　清治

日立製作所
九州營業所
福岡市天神2丁目12番1号（天神ビル）
電話　福岡（74）5831（大代）

宗像大社献詠
俳句作品集（七十九）

門司　永島　哲夫
家四五戸いだきて雨の豁新樹

平等寺　中野　きみ
世の移り今年限りか菜殻焼く

津屋崎　井浦　良介
封鎖解く学園の庭紫陽花咲き

飯塚・福永　アキ
御神馬のまぐさにまじるれんげ草

田熊　小野　淡坡
若者に負けるものかわ田植する

田熊　小野　花居
手にうけし藤紫の花雫

大井　木原ふさ子
苺ジャム煮つむ厨の窓若葉

大井　吉田ますみ
吾子に嫁五月の庭は緑増し

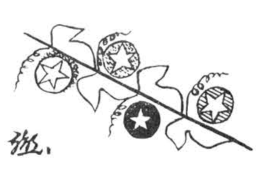
福岡　広田　美津
兼六園古代の影色も花あやめ

大井　安部　重郎
一刻を句友三人緑薄暑

大井　吉田　和子
青葉木免避地にあきし教師かな

粕屋　白石百合蔵
行く春の肩よせいても安ならず

田島　白雲　山人
あばら舎に化学の入らぬ風かおる



出光佐三一問一答シリーズ　㉟

マルクスが日本に生まれていたら

項目	マルクス	出光
あなたの好きな徳	素朴	相手の立場を考えること
あなたの好きな男の人の徳	強さ	実行力
あなたの好きな女の人の徳	弱さ	まとめる力
あなたのおもな性質	ひたむき	外柔内剛
あなたの幸福観	たたかうこと	仲良くすること
あなたの不幸観	屈従	孤独
あなたのいちばん大目に見る悪徳	軽信	人間らしい過ち
あなたのいちばんきらいな悪徳	追従	利己
好きな仕事	本喰い虫になること	働くこと
詩人	アイスキュロス、ゲーテ、シェークスピア	仙厓和尚
ヒーロー	スパルタクス、ケプラー	楠木正成
好きな格言	人間的なことで私の心をとらえないものはない	無私
好きな標語	すべては疑いうる	愛と信頼

マルクスの霊前への報告

質問　マルクス主義の考え方のいくつかの基本的な問題点に対して、店主の考えをいろいろお聞きしてきました。そしてマルクスの目指したものに達するのに、その手段はまったく正反対ですが「ここに道あり」ということを店主自らの体験と事実によって示してこられました。そこで私たちが非常に興味深く感ずることは、マルクスが死んだのは一八八三年三月、明治十六年で、店主はその翌々年の明治十八年に生まれておられます。いつか店主は茶飲話で、「昔或る人からあなたは何代か前のおばあさんの生れ代りです」と言われたことがあると話されたことがあります。私たちとして、今度のマルクスと出光の比較をやっておりますと、両者がその出発点や目標などで、あまりに似ているし、両者の気魄とか反骨精神という面では、非常に相通ずるものがあるようにも感じたわけです。そこで面白半分に、マルクスが日本に生まれ代って店主になったんじゃないかなどと話し合ったことがあるのですが……（笑）

出光　そのおばあさんの生れ代りというのは、こういうことなんだ。何十年前になるかな、大阪の或る人がぼくの生年月日を聞いて、これは非常に幸運の生れだといって驚いたことがある。そしてその人がぼくの先祖の位牌を拝ませてくれといって拝んでいたところが、端坐したおばあさんがそこに出てこられたというんだ。そして「この方は非常な社会奉仕をやった人で、その人の徳があなたに伝わっている。もしあなたが悪いことをすれば、先祖の徳はあなた一代で消える、よいことをすればその徳はまた子孫に伝わっていく」というようなことを聞かされた。その後二、三年して、偶然に出光の本家の人に会ったが、その人が言われるには、昔、おるいというおばあさんがおられて、社会奉仕をよくやられて有徳の誉が高かった。したがって出光家では女が生まれることを喜んだということなんだ。さっきの大阪の人と、この出光本家の人の話が偶然に一致したんだ。ぼくはその話を聞いて、有徳の行為がいかに大切かということを知らされたんだが、マルクスはこういうことをどう考えるだろうかね。

そこで君たちの質問だが、ぼくがマルクスの生れ代りかどうかは知らない。だがとにかく、ぼくが四十年前に共産主義が入ってきたときに、頭から否定せずに、そのいいところは採れと言っているのは面白いね。そう言ったのは、ぼくなりの信念から出ているんだが、偶然にもその資料が現在残っていたので君たちも興味あるだろう。

ぼくは君たちから、いろいろマルクスのことを聞いて、マルクスを非難するよりも同情する気持のほうが強いね。マルクスは人類の平和と福祉を目指しながら、たまたま対立闘争の西欧の土地に生まれて、日本のような和の道を知らず、否応なしに対立闘争の道を歩かせられたんだからね。出光のあり方や、日本の互譲互助・和の道などをマルクスが知ったならば、喜んだのじゃないかと思うんだ。

その意味で、今度の勉強を機会に、君たちは、出光はこうして仲良くしあわせに五十数年間やってきましたよ、日本には二千年も前からこういう和の道がありますよ、ということを、マルクスの霊前に報告したらどうだい。労働者階級のみでなく、全人類が仲良くしあわせに行く道があることをマルクスが知ったならば、きっと喜ぶと思う。

結び
―マルクスの功罪と日本人の使命―

質問　マルクスの思想は、現在、東西両陣営の対立という情勢の中で、一方の社会主義陣営の思想的・理論的支柱になっています。それは、はじめ労働運動、革命運動の指導理論であったが、第一次世界大戦中にはロシアに、また第二次世界大戦を通じて東欧八カ国、中国に社会主義政権をもたらしました。さらに自由主義陣営といわれる資本主義諸国内部でも、労働運動や社会主義、ないしは共産主義政党の典拠・指導理論になっています。このようにマルクス主義が、その善悪はともかく、あるいは好むと好まざるとにかかわらず、世界に広く伝播し、その力は現実の変革力として作用しています。そこで最後に次の三つの質問をいたします。

質問(1)　このような事実を考え合わせて、マルクスが世界史の上に果たした役割を、どう評価されますか。

出光　今までにも再三言ったように、マルクスは資本家の搾取に反対して出発し、働く大衆のために尽くして、資本家の搾取を戒めた点は、マルクスの功績だと思うね。

ところが一方で、マルクスはその目指す社会、共産主義社会をつくり出すために、階級闘争という手段を選び、そしてプロレタリアートのみの幸福を第一義的に考えている。平和と福祉を拡めるのに一階級のみを優先させたり、平和と福祉を求めながら対立闘争を手段にするなどということは、木によって魚を求めるの類だ。

今日の世界の行き詰まりは、対立闘争の思想の行き詰まりであるこの行き詰まりのすべての責任をマルクスが負うべきだなどと言うつもりはないが、やはりマルクスの階級闘争奨励の考え方が相当の影響を及ぼしていると思うね。とくに現在のごとく、もうこれ以上対立闘争すれば、核爆発によっていつ人類が全滅するかもしれないというところまで追いこまれているときには、マルクスの生まれた西欧の階級闘争・対立闘争の思想は、もう致命的な欠陥をもっているということじゃないかね。

（つづく）

経営とは何か
PFドラッカー

むろんマネージャーの仕事として他の課題、たとえば人間を組織化してこれを運営していかねばならないという仕事もある。

しかしこの人間の組織、集まり、企業体というものは、経済的な結果のために存在するのであって、逆の存在ではない。

ところが自分の仕事のやり方というものを静かにふり返ってみれば、おそらくこれが系統立った組織的なやり方でなくて、とかく行きあたりばったりになるということに気づくだろうと思う。

これまでコンピューターについて、あまりふれていないのであるが、ここで強調したいことは、コンピューターはあくまでも道具である。自分のために仕事をしてくれるものであって、コンピューターのとりこにならないよう、コンピューターのために働いてはならないということを強調したい。

企業家としての真の知識と経験を備えている人たちは、顕微鏡で探さねばならないほどわずかしかいないということがいえる。ところが人間というものは、自分がかって経験したことのないことを十分に理解するには、なんらかの論理的な説明がつかないと、これは理解できない。

どの人間の仕事を見ても、経験がない場合には少なくとも論理的な説明がつかない以上、その仕事のやり方、内容について理解できないというのが当然であろう。ところが、この企業家の仕事というものが、一般の社会の人から見れば、全くこんとんたるものであって、全く理屈の立たない何か遊びごと、たわごとをやっているようにしか見えない。

三〇年、四〇年前のことであれば、人を使うマネージャーの仕事というものが、いま企業家の仕事がわからないのと同じように、やはり無意味のように見えていた。

しかもこの三、四〇年の間にマネージャーの仕事、マネジメントの仕事ということが体系づけられたため、少なくともマネージャー以外のものにも、これがりっぱな仕事として写るようになってきているわけである。

現在では、社会学の教授でさえ、このマネージングの仕事というものを仕事として認めている。すべての学者の中で、この社会学者ほどものわかりのわるい学者はいないが、それですらマネジメントというものを一つの仕事として認めるにいたっている。

この企業家的活動という社会の重要なかつ中心的な仕事、活動を、社会全般が理解して支持できるような一つの体系づけというものが必要になってくる。マネジメントというものは、知識でもなければ、瞑想でもない。これはあくまでも行為、アクションである。したがってその測定は、その結果によって測定するのである。企業の将来について役に立つ結果というのは、自分の企業におけるマネジメントの効果というものしかないのである。

経営の倫理

経営とは一つの実施である。その実施を続けながらその中から普遍的なもの、理論的なものを見出すのが、経営学ならびに企業経営の本来の行き方である。

PFドラッカー

（つづく）

――宗像藪庵先生百話――

南方華やかなりし頃

宗像太郎坊

ふんどし談義

グンパンを基点として高原の町タケゴンに通じる戦略道路をジャングルの中に作っているとき、多数の現地人労務者を使用していた。人間が集ると、まず問題になるのは、喰べる物と出すところである。出すところといえば便所であるが、穴を掘るには手がかかるし、またすぐにいっぱいになってしまう。タケゴン河に注ぐ深い小川の傍に労務者の宿舎を造り、小川に、クロスさせて樹を一尺間隔ぐらい二本渡し、その樹を跨いで、間に糞尿を落すようにした。夜明けに行ってみるともう数人やっている。あとからきた者が「おい！もっと進め、あとの者ができねえじゃねいか」とこぼす。一番先頭の者が糞を挟んだまま前にいざり寄ると後続部隊もこれに倣う。この樹の下は、瞬く間に、糞の堰が出来て、川の水をせき止めてしまう。この糞の堰を見ていると、つくづく人間があさましくなってくる。

さて、ある時この宿舎を巡視していると、みなパンツ一枚であるが、なかに一人フリチンの者がいる。あまり気の毒なので聴診器をもって次の巡視の時、私のフンドシのお流れを一枚持参して与えてやった。大変喜んでいたので、よいことをしたと満足して帰った。つぎの時に見るとやはりフリチンである。おかしいなと思ったが、次の時にまた、一枚お流れをくれてやった。大変喜んでいたが次の時に見るとあいかわらずフリチンである。この野郎、おれの誠意を知らないな、「馬鹿野郎。お前にゃ二回も褌をやってくれたのに、どうしたか」と怒鳴りつけると、ただおどおどしているばかり。傍にいた幾分人間らしいのが「トアン（旦那）、あれは喰べ物と代えたんです」という。この連中の喰い意地のはっているのにはつくづくあいそが尽きた。生きるために喰ってるのではなく、喰うために生きているのである。

恥も外聞もない、もうこれ以上くれてやっても無駄である。第一私の方が褌の代りをなくしてしまう。よく、南洋は暑いので住み易く、褌が二枚あれば暮せるというが、一枚では暮せないのかという質問が出ると思う。一枚でもいいが、洗濯したときに、乾くまで傍で待っていなければならない。その時間がもったいないから、もう一枚いるというだけのことである。先日、テレビを見ていたら、マダガスカル島の川辺りで、プロの洗濯女が川水で盛んに洗濯している。そのうしろの叢で人相の良くない男が蹲んでいて、時々、立ち上っては女の方をうかがっている。痴漢かと思ったら、そうでなく、自分のサロン（腰巻の一種）を洗濯に頼んで、近くで乾くのを待っていたのである。同じ人間の一生で、こんなのんきなところもあるものだ。いまごろは、日本でもほとんどパンツであるが、昔は褌で、ずぼらは三年醤油で煮しめたような色をしていた。わたしがあるとき、某県の教育長を訪れたとき、愛妻家だとみえて、五右衛門風呂を盛んに焚いている。見ていると、深く蹲むたびに、ホーデンの重さで耐えられなくなるぐらいに伸び切った皮が、褌の隙間から、やや赤味を帯びて見える。大した教育長だなあと思ったものだった。前に名前を書いた褌を日本兵がパン助の家に忘れて帰り、パン助が衣類のない時ではあるし、しめたとばかり、自分が締めていたことを書いたが、褌に関してはいろいろの笑い話がある。ご存知のように、某日本人が欧州で白人の家に厄介になっていた、ある時、クリーニング屋が洗濯物を届けてきた。その中に褌が一枚入っていた。白人の女は首をかしげて日本人のところに持って行き、「これは貴方の物ですか」

（つづく）

魚信

～大島のバリ釣り大盛況～

今まで低調であった各地の釣況も梅雨入りと共に、漸く活発さを呼び戻したと伝えられる中でも、筑前大島でのバリ、チヌ、クロ、釣りは益々盛況さを加え、日曜日は数百名の釣人で賑い、八幡釣天クラブ、西部電機釣クラブ、社会保険組合等を始め各々のクラブが大島に集まり、釣大会を行った。

バリは目下産卵中で産卵場を求めて大挙して波止場周辺の浅場におし寄せて来る。だから、ポイントさえまちがえねば一人十数尾の釣果は充分期待出来る。

大島のバリ釣りのポイントは、北波止突端、避難港赤灯台下、それに弁天桟橋先のゴミ捨場附近に限られる。

仕掛けは竿グラス胴調子に二間半—三間。道糸四号—五号。ハリス二号—三号一米半。鈎伊勢尼七号—十号。浮木細長十五糎—二十糎。浮木下約二米半—三米。餌ミソダンゴ、麦、田エビ。

バリの当りは特に弱いので感度の良い浮木を使用し、微妙な浮木の変化をも見逃がす事なく素早く合せねばならない。又、引きはバリ独特の非常に強烈なもので、この手ごたえが何とも云えぬ醍醐味で、遂に病みつきになってしまうのである。しかし、岩場にもちこむ心配はないので、ゆっくり泳がせ、弱るまで待ってあげたらよい。

又、梅雨クロも姿を見せ始め、雨上りの海面の白濁した日などは三才ものを中心として面白いように釣れる。餌はゴカイ、タエビ。ただ、クロはハリスをきらうので〇、八号か一号程度の細い仕掛けで釣るため、非常にやわらかなヘラ竿、又は、メイタ竿を使用した方が無難である。

何れにしろ、今から当分、大島波止での釣りは大盛況を見せるので、試しに一度は是非渡島するのも面白いだろう。

× × × ×